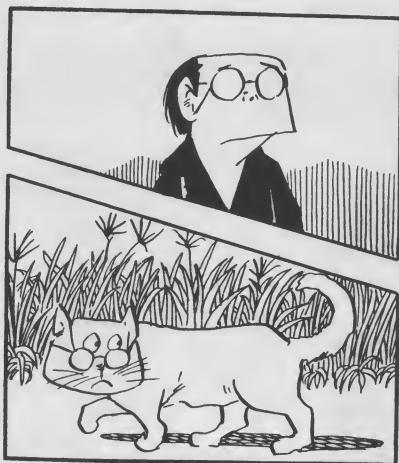
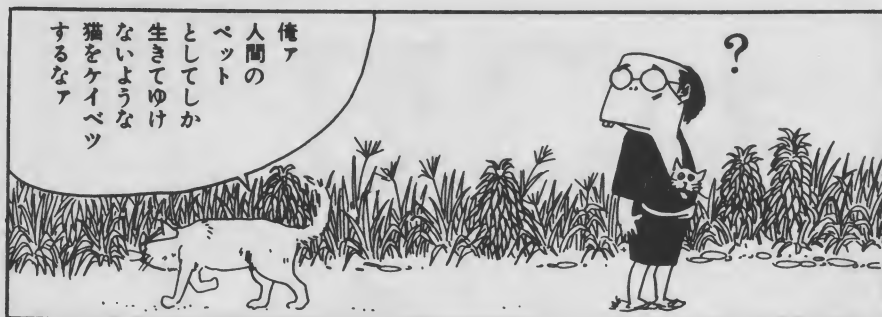


ねこ忍

水木しげる

さまざまな歴史上の重大事件も、平凡な人々の運命もすべて人と人との偶然の出会いによって始まる。古くはアントニオとクレオパトラ、いや男女の仲だけではない。諸君の友人にしても偶然どこかで合ったことから始まるように、この「人語を解する猫」と「猫語を解する人間」との奇しき運命も、まずこの偶然の出会いによって始まるのだが……けだしこれほど奇にして怪なる出会いもマレであろう。





わしはそれを
作るのに
どれだけ
苦労した
ことかヨ

いや
これに
よって
人間と猫
とのミゾ
がうめられた
ようなものです



この功績は
高く
評価され
なければ
ならない
でしょう



いや
キミの
人間語研究
こそ
高く評価
されるべき
じゃないかな



この少年とも壮年ともつかぬ男は、猫をかいならし、自分の忍法の一助にしようとしたのであるが、熱心な三毛のすすめによつて、猫語を研究し昨日やつと「猫語辞典」を完成し、どんな猫とも話せるようになったところだった。

どう
でしょう
大分空も
曇ってきた
ようです



大切な
辞典でも
ぬらしては
コトです
あのほら
穴にでも
……

うむ
雨宿り
せすば
なるまい



よく続いたものです。それだけで大したものですよ。いや、偉大というべきです。「ガロ」にかくとトタンに貧乏になり、「ガロ」をはなれるとトタンに金持ちになる、という謎を解くのが余生の研究題目です。

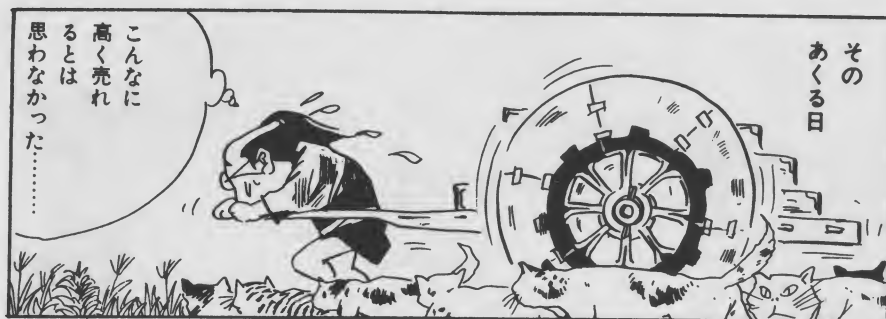


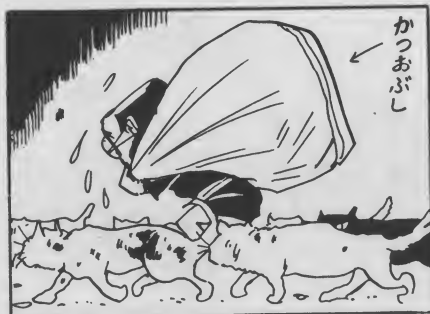


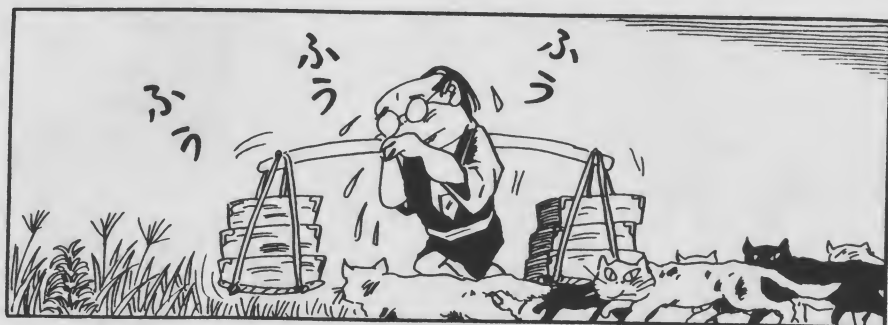












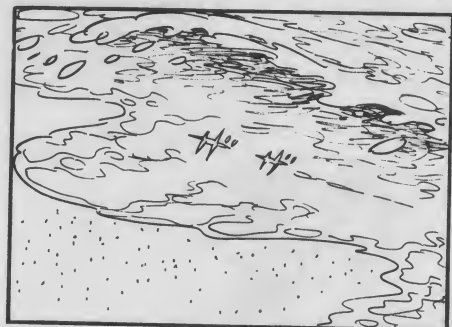
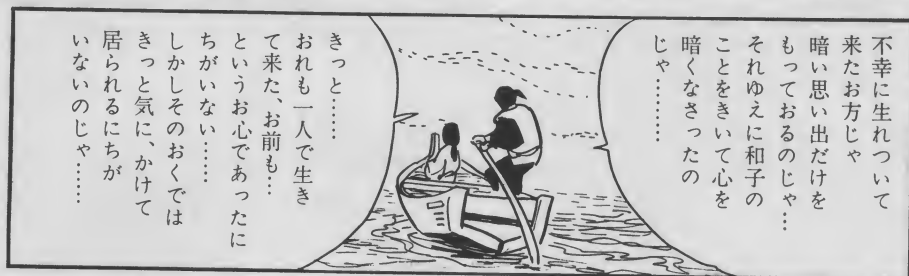


人間がロクにめしも食えなかつた時代に猫が生きぬくということはおそらくよい事ではなかつたろう。

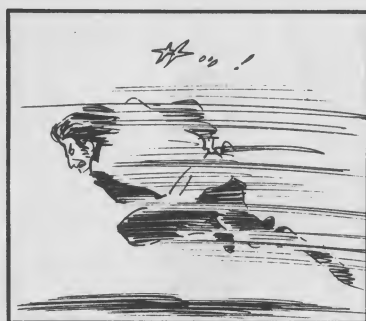
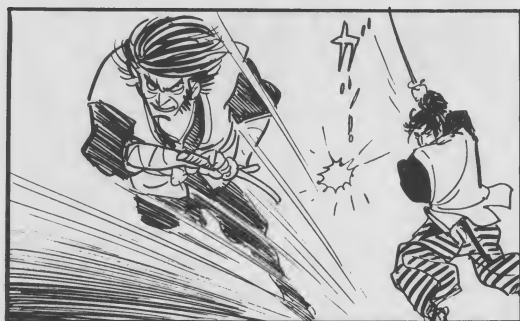
困難に直面するとしばしば英雄が現れて民族を救うというが、それは猫界にもまたあり得ることであり、すべて生物は困難に直面するとしばし信じられぬ力を出してその種族を保持するとき、我々人間は猫語を解し得ないから、猫の歴史を知ることとはできないが、こうしたことも長い猫史の中にはあつたであらうと私は推察している。

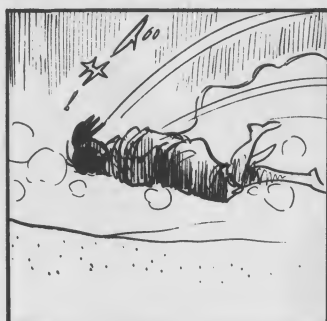
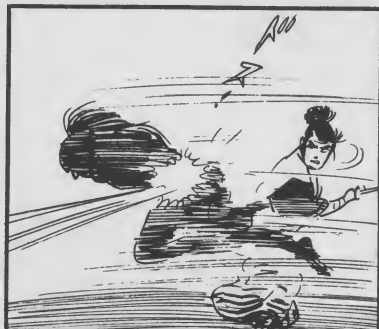
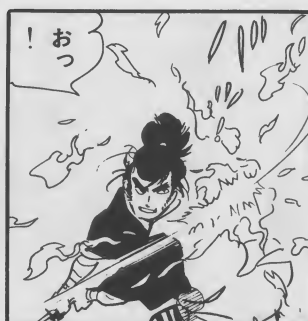
完

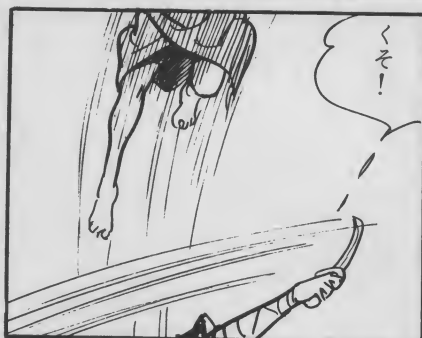














和子も
とうとう
孤児になら
れたか……



主人様……
お願いでき
るでしょうか
和子のことは



む……

しかし
断って
おくが
私について来る
なら豊臣秀頼の
子というのを忘れて
一人の孤児として
お前だ……



でも……



決心がつい
たら追って
くるがよい
私は故郷に
帰る……
むなしい旅は
もうあきた



さがしたぞ
おぬしの夕陽
がどうしても
みたくてな

佐州半人
宮本武蔵！



む……

お断りして
もむだな
様だな……



